



2009年11月

図書館 まなびトーク

学人ニュース

図書館を利用して行った生涯学習の発表会

継続するは力

図書館 まなびトーク

千葉県立西部図書館では、読書週間 - 10月27日(火)から11月9日(月)まで - にあたる10月30日(金)に、31名のご参加をいただき、今年度第3回目(通算4回目)の図書館まなびトークを開催しました。

午後1時30分からの第1部「発表の部」では、ご応募いただいたお二人に、佐久間直次さんには「豊富な史料を利用して学習～天文と古代人の関わり～」というテーマで、中條藏實さんには「図書館を書斎に！ 読書会100回余とポストモダン」というテーマで発表していただきました。発表の後、当館職員が発表テーマに関連した「ワンポイント図書館活用ミニ講座」を行いました。
(発表要旨は次ページ以降をご覧ください。)

第2部は「トークの部」として、参加者の皆様による情報交換と図書館トークを行いました。発表を聞いての感想や生涯学習についての思い、図書館への要望などについて意見交換しました。
(トークの内容は最終ページをご覧ください。)

次回は平成22年2月26日(金)に開催予定です。

～プログラム紹介～

<第1部 発表の部>

佐久間 直次さん「豊富な史料を利用して学習
～天文と古代人の関わり～」

中條 藏實さん「図書館を書斎に！
読書会100回余とポストモダン」

～ 休憩 ～

ワンポイント図書館活用 当館職員

「暦について調べる」

質疑応答

<第2部 トークの部>

情報交換と図書館トーク



「図書館 まなびトーク」とは...図書館で学ぶ人たち(学人=まなびと)の学習体験の発表、交流(=トーク)の場として、また日常の生涯学習の場として図書館をもっと活用していただきたいという思いから名づけました。(今後の開催予定: 2/26(金))



参加者の声

(アンケートのご意見から)

「天文と古代人の関わり」というタイトルに関して興味深く拝聴致しました。天文に関しては普段私共の生活と深い関連がありますが別の切口でのお話であり参考となりました。
(松戸市 65歳)

発表者の内容は別にして「継続は力なり」と改めて感じました。
(松戸市 60歳)

二人共、自分なりの目標に向かって生きていらっしゃるので、元気を分けてもらったような気分で、図書館を後に帰れそうです。佐久間さんの話は、理科の授業みたいで楽しめた。
(松戸市 56歳)

各人各様に自分に納得できる行き方、学び方を模索しており、大変参考になった。
(松戸市 66歳)

大変素晴らしい企画であり、永く継続され地域の活性化を楽しみ乍ら集い合い度い。
(松戸市 67歳)

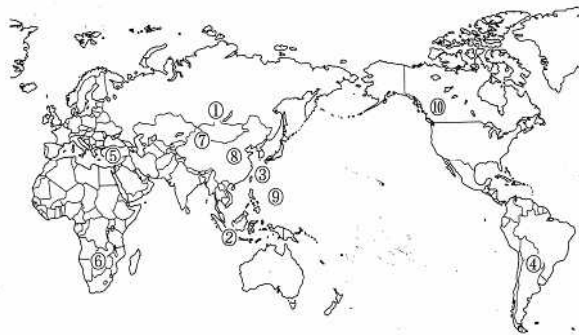


豊富な史料(資料)を利用して学習「天文と古代人の関わり」
佐久間 直次

星に魅せられて、日食を追い地球の裏側まで観測に行ったが、先日のトカラ日食は悪天候であった。未知の宇宙については科学技術の進歩により日々、解明されつつある。最近、「天文と古代人の関わり」についても興味を持ち、それらの学習を楽しみにしている。

この3月、40年間の教員生活を終えるにあたり、定年後の生活は何をすべきか考えた時、真っ先に、これからは思う存分に趣味の天体観測や写真、読書、落語鑑賞、散歩、自然観察、園芸、旅行等ができると思ったが、何か、もの足りない気がした。

これまでに日食やハレー彗星、オーロラを追って地球の裏側まで観測に出かけた。シベリア、インドネシア、沖縄、パラグアイ、トルコ、アフリカ、中国(新疆ウイグル自治区)、中国(池州)、サイパン、カナダと



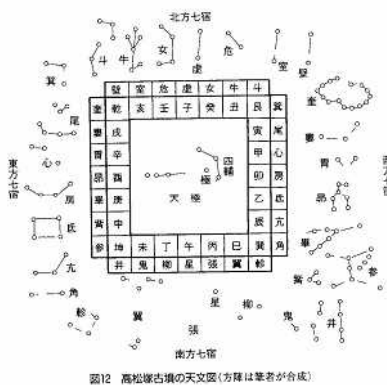
その都度、世界遺産ともなっている名勝、遺跡等を訪れたが、昨年シルクロード日食の観測ツアーで観光した中国のウルムチ、トルファン、敦煌、西安等の遺跡の見学から「古代人が天文現象をどのように捉え、畏怖し、利用したか」を思い、それら一つでも知りたいとの願望を抱いた。

シルクロードの東の終点である日本の奈良の地でそれらを勉強したいと思ったとき、新聞で奈良大学の入学案内を目にして、迷わず入学をした。

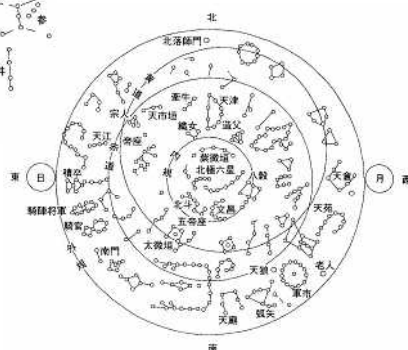
「天文と古代人の関わり」をテーマとして

弥生時代：土器、銅鐸に描かれた天文図

古墳時代：古墳の天井絵の天文図



高松塚古墳



キトラ古墳

図9 キトラ古墳の天文図(すべての星をきむ)

飛鳥時代：仏像・光背の中に見る天体

奈良時代：都市計画、神社仏閣等の建造物と天体

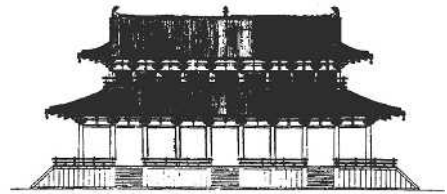
大極殿の名称

大極殿は平城京でもっとも重要な建物

中国では宇宙の中心を北極星と考えた

北極星=大極星といわれた

国の中心は都(平城京)、その中心の建物を大極星からとって大極殿とした



推定第一次大極殿の復元図

万葉集・古今集をはじめとする和歌に詠われた天体

い	三	春	ふ	あ	
で	笠	日	り	ま	
し	の	な	さ	の	
月	山	る	け	原	阿
か	に	見			倍
も		れ			仲
		ば			麻
					呂



暦の元としての天文現象

- ・一日の長さ：昼夜の周期(地球の自転)
- ・一月の長さ：月の満ち欠けの周期(月の公転周期)
- ・一年の長さ：季節の周期(地球の公転)
- ・中国の暦が日本に伝えられたのは欽明天皇14年(553年)
- ・推古天皇10年(602年)官暦として正式に採用された?
- ・持統天皇4年(690年)、「勅を奉りて始めて元嘉暦と儀鳳暦とを行う」

これらを図書館の豊富な史料(資料)を活用して調べてみたい。

幸いにして西部図書館は理系の図書が豊富と聞く。四月から通い始めて日が浅く、どのような方法で、また、どのように調べたら良いか。未知な事だらけである。館員の方々にご指導を頂き学習を楽しみたい。

還暦の 洩垂れ小僧に 喜寿の兄
知るを楽しむ 今が青春

直次



図書館を書斎に！ 読書会100回余とポストモダン

なかじょう くらみ
中條 藏實

西部図書館通いの仲間で作った『読書交遊会』は、今日までの約10年間に100回余を続けてきている。代表なし、司会なし、会則・会費もなしでやってきたあとをふり返って、その内容と特徴を報告する。

【1】読書会はじめて、100回余の実施内容と、その特徴

我々は10年前の2000年12月に図書館通いの仲間が、出入り自由で自主的な『読書交遊会』をつくった。当時の閲覧室の空気を、昨今と比べると、うつ然とした気おもな感を強くしている。これは団塊世代を反映して、品格のある人が多くなってきている関係とも云える。

ともかく、今日まで100回余り続いている読書会の内容については、配布してある『読書交遊会開催記録』を参照してほしい。ここでは全体を通して一般的に言えば、宇宙論、地域論、小宇宙の脳構造科学など自然と人間とのかかわり。次には文化、思想、哲学から歴史とのかかわりのもの。加えて、暮らしの場から社会システムの在り方を求めるもの。さらには、般若心経の心読といった分野から、日本語の源流をたずねるとともに、漢字の導入に伴う儒教、道教、仏教などの伝来による日本文化として融合、「和」の心による独自の文化形成の独創性といったテーマの選択にもわたっている。

この間、日帰りハイキング、宿泊旅行を都合20回余も企画して、親睦を深めている。

とくに、当面の世界大不況をめぐっては、単なる経済的循環とみるのではない。アメリカによって世界化された現代文明の危機として認識する。この文明論的視点に立って、「新しい社会」に向けて、脱工業社会からの「大転換」の構想の具体化について佐伯・榊原両人の、いわゆる「ポストモダン論」を紹介してみることにした。これはごく最近の103回と105回に報告した内容である（開催記録6ページ参照）。

【2】「公共計画」実現で「脱工業社会」への転換うながす佐伯

佐伯啓思 京大名誉教授は、今回の100年に一度の危機を捉え、当面の景気対策なり、グローバル化を含めた中期的視点からの福祉政策の強化の重要性を十分認める。さらにすすめてダニエル・ベルの『脱工業社会の到来』（1973）に依拠して、新しい社会は価値観の『大転換』によってはじめて実現するものとして、次のように提言している。

「新しい社会」は「公共計画」という概念を前面に、それをベースにして「人と人とのゲーム」の構想として捉え、人々の合意に基づく公共計画を立て、そこでの世代間の争いなどを克服して実現される社会である。したがって当面、医療・教育・環境保護・自然との共生・都市の景観・安全性・資源・文化の進展という社会的文化的資産の充実を目指すスタートを切るべきである。このために同じ巨額の不況対策費を支出するならば、このような展望理念をふまえて取り組むべきだ。この了解は市場中心主義とは全く異なった価値の要請であるとしている。

その際、農業が生み出す基本的生活物資の自給体制に向けては、部分的な経済ナショナリズムは当然の発現としていく

べきである。こうして今次大不況を契機として経済社会の構造的な大転換運動をスタートさせるべきと促している。

【3】榊原は大胆にも「日本回帰」「江戸回帰」を説く

「ミスター円」の異名をもつ榊原英資も近著『大不況で世界はこう変わる』の中で、今回の不況を「構造的」なものとして捉え、アメリカ的金融資本主義の崩壊、GMなどビッグスリーの破綻にみる、物づくりアメリカの落日と見て、日本の進むべき道として、日本というユニークな歴史と伝統文化、地政学的地位を活かして、とくに日本は600年（平安時代と江戸時代）にわたって絶対平和であったこと。「神仏習合」と「和」の心による「権威」と「権力」の二元的分立の貴重な政治的社会的システムの妙味を確立している。

天皇制を軸とし、多神教である寛容性もあって日本の安定的政治システム、さらには、明治維新以来の文明開化による西欧近代の思想と制度を摂取して、日本は独自の融合日本文化を醸成していること。とくに、江戸時代における「兵農分離」を前提としつつも、社会構造面においては、武士階級も農民社会にあっても、西欧的なものに比べ平等性が色濃く、寺子屋の普及による平仮名の創造も手伝って村単位の自治が強かった。この事実在即して榊原は「ポストモダン」の新しい社会構造構築において「日本回帰」を大胆に説く。

なかでも、地方分権では道州制よりも30万人以上の基礎的自治体として位置づけ、中央政府、基礎的自治体の300を形成（江戸時代260藩）して、現在の五重構造（中央政府・地方出張所・都道府県・市町村・民間）から三層構造（中央政府・基礎自治体・民間）の国のかたちを目指すべきである。このイメージ提言は、日本と日本人が欧米化、アメリカ化し過ぎた現実を直視し、日本と日本人を「日本回帰」することによって日本の平和力、文化力、技術力といった強みを再発見して世界に発信していくのが21世紀日本のあるべき姿と考えている。これは決して狭い懐古趣味やナショナリズムではない。

【4】「まなびトーク」は読書交遊会の継続と自己進化の場

今年3月に始まった西部図書館キモ入りの生涯学習や各人の目的をもって学んだことの発表の場を提供したという、願ってもない企画には賛成である。

我々はこれに参加し協力することによって自らの視野を広げ、大いに知的刺激を受けて、読書会としての「活性化」を促すことにもなるとみている。何よりも、佐伯が云っているポストモダンの「新しい社会」をつくり出すのもっとも大切で、地域における信頼感（構造改革によりズタズタにされている）を取り戻し、高めていく一環を進んで担うことにもなるという点では、我々は自重し誇りとすべきであると思っている。

（以上）



～ワンポイント図書館活用ミニ講座～ 暦について調べる 調べ方の事例

暦についてよくある疑問を調べるのに便利な図書館所蔵の参考図書をご紹介します。
()の中は当館の請求記号です。詳しくは資料リスト「暦について調べる」もご覧ください。

Q1 元禄15年12月14日は西暦ではいつ？

A. 西暦(新暦)と和暦(旧暦)が対照できる資料で調べられます。(A. 1703年1月30日)
便利な参考図書『江戸幕末・和洋暦換算事典』(西部参考 4493-6)

Q2 過去数年間、今後数年間の六曜(先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口)を知るには？

A. 暦についての参考図書で調べられます。
便利な参考図書『21世紀暦 曜日・干支・九星・旧暦・六曜』(西部参考 44981-3)

Q3 七夕、中秋の名月は今の暦ではいつ？

A. 理科年表の暦部などで調べられます。
(A. 2009年の伝統的七夕は8月26日、中秋の名月は10月3日でした。)
便利な参考図書『理科年表 第82冊(平成21年)』(西部参考 4036-1-09)

Q4 七十二候(しちじゅうにこう)について調べるには？

A. 暦についての参考図書で調べられます。(A. 二十四節気をさらにこまかく三等分して、一年を五日ごとに分けたのが七十二候である。[『暦の百科事典』より])
便利な参考図書『現代こよみ読み解き事典』(西部参考 4493-8)、『暦の百科事典』(西部参考 4490-2)、
『暦と時の事典 日本の暦法と時法』(西部参考 4490-1)



情報交換と図書館トーク

図書館の分担収集について。取り寄せについては知っているが、2、3日かかるので2度図書館にこななくてはならない。パソコンもあまりつかいやすくないので改善できないが。

県立図書館は3館あり、財政が厳しいので、1冊の資料を3館で貸し借りする方法を取っている。県西部地域では市の図書館が充実しているため、市の図書館で比較的所蔵が少ない自然科学、医学、科学技術の分野を重点的に収集している。周辺に図書館の数が少ない東部図書館では比較的ポピュラーな文学や歴史を、中央図書館では残る社会科学、芸術、語学等の分野を収集している。それぞれの所蔵資料は週に2回車を回してやり取りをしている。そのためご不便をおかけして申し訳ない。パソコンが使いにくいときには図書館職員が電話で対応もしているのでご利用いただきたい。各市立図書館での取り寄せ申込、貸出、返却もできるのでご利用いただきたい。パソコンの検索では「キーワード」検索を使用したり、検索の言葉を少なくして再検索することで、検索結果が増えることがあり、またパスワード登録をすると自宅から予約ができ1回の来館で済むのでご利用いただきたい。(図書館)

社会科学の本が少ない。蔵書が充実していない市立図書館もあるので、例えば3年や5年ごとに重点分野をかえるなどしてほしい。本の情報はタイトルや著者だけでは不十分で、実際に手にとって見てみないとわからない。分担収集のローテーションを組んでほしい。

重点分野も10年が経ち見直しの意見もある。検討の時間をいただきたい。(図書館)

特別整理期間が9日間というのは長すぎる。毎月計画的に1、2日ずつ蔵書点検を行い休館期間を短縮してほしい。蔵書点検のときのみボランティアを募集してほしい。

蔵書点検は約27万冊の資料が所定の場所に並んでいるかどうかを年2回棚卸しして点検している。作業の効率化をはかり、以前の10日間から9日間に1日短縮する事ができた。作業につかう読み取り端末の台数にも限りがあり、人数だけで解決できない。今後効率化について研究していきたい。(図書館)
今日の発表を聞いて、興味の対象が物事の本質、原理、原則、宗教等に向かっていくのを感じる。文系と理系とを分けて、文理融合的な知見に基づいた思想が求められる時代になっていると思った。有意義なことをなさっているお二人がうらやましいと思った。

地球の定員は何人だろうか、といったこともそろそろ考えるときは。

そのような先のことを考えるときには自然科学が元になるのでは。

図書館の**背表紙にラベルや参考書シールが貼ってあり**肝心の巻数や内容がわからない。貼る位置を検討いただきたい。

ラベルは本の置き場を示すため決まった位置に貼るようにしている。ラベルは1段目が分類、2段目が受け入れ番号、3段目にシリーズや全集の巻数を表示しているのでラベルもご覧いただきたい。背表紙の情報が隠れてしまう場合には、補記できるものは補記していきたい。(図書館)

パソコンでワードエクセルを学習したいと思ったが、ソフトは使用できなくて残念だった。

図書館では検索の仕方はご案内できるが、パソコンの講座は行ってない。他の機関をご案内します。(図書館)

自分も大学で聴講し、しだいに人のつながりができていろいろな活動に発展した。発表者のお二人のおっしゃることもよくわかった。

学人紹介

2009年3月18日開催

湯沢 幾男さん
「日本の風土を考える
～二つの風土論から
学んだこと」

阿部 幸次さん
「樺太アイヌの歴史と
山辺安之助の『あいぬ物語』」

2009年5月22日開催

細井 滋さん
「良寛和尚の足跡」
岡戸 大国さん
「無害な核エネルギーと
中央アジアの資源大国
カザフスタンの将来展望」

2009年7月24日開催

末満 宗治さん
「無いものを図書館で探す」
三沢 博志さん
「調べることはおもしろい・・・
～自然誌関係文献目録編集
の経験から～」

図書館 まなびトーク 学人(まなびと) ニュース

平成21年11月11日発行
千葉県立西部図書館編集

〒270-2252
千葉県松戸市千駄堀 657-7
TEL 047-385-4133
<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>